



ふくしの人

施設長

＝下益城郡富合町の
「なずな工房」

障害のある人たちと一緒に、十種類ぐらゐのパンを焼いています。今年の四月にオープンし、定期的にとう障害者はまだ二人。当面の目標は、行政の運営費補助を受けるための実績作り

村上佳代さん(37)

地域のなかのパン屋に

です。障害の種類や程度にかかわらず受け入れます。パン作りは、たとえあんパンにゴマを振るだけの仕事でも、焼き上がったお客の手に渡り、百円の売上になることで、自分の仕事の意味を実感できます。箱折りなどの単純作業では味わえない、喜びやふれあいがあるとあります。

障害者作業所という名称は付けていません。障害を持つている人が、いつも障害者施設と書かれた門をくぐることはないと思っからです。地域のなかの普通のパン屋で、障害のある人がそれぞれの仕事を通して、充足した時間を過ごす。これが理想です。